

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-32	高等学校	商業科	グローバル経済	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190東法	商業735	グローバル経済		

1. 編修の基本方針

編修にさいしては、教育基本法に定める「第一章 教育の目的及び理念」を参照し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う教育を推進することを基本方針として、本文の著述を心がけた。(教育基本法第二条)

さらに個別の項目については、学習指導要領と学習指導要領解説をふまえて編修し、用語や概念、理論は基礎的なものに限定して、事例や画像、グラフを多く用いながら平易・簡明な説明を心がけた。また、グループワークや調べ学習を適度に扱い、生徒が主体的かつ協働的に学習できるよう配慮した。

第1章では、グローバル化と国際化との違いや地域経済の統合の現状など、経済のグローバル化を理解するうえでの基礎的な知識を記述するとともに、グローバル化が進展するなかでの日本の果たす役割について、ODAやクールジャパン構想を例にあげて記述した。

第2章では、市場と経済に関する基礎的な知識の習得のため、完全競争市場や独占市場における価格決定のしくみなどについて適宜グラフを用いて記述するなどして、生徒が理解しやすいよう工夫した。また、各国の経済成長率を比較して要因を探らせたり、税のしくみを学ぶ過程で、各国の国民負担率を比較して社会保障と国民負担率について考察したりする課題を設けるなどして、市場と経済の動向について生徒の興味を引き出すようにした。

第3章では、経済のグローバル化の動向・課題について、ヒト・モノ・カネ、情報に着目してそれぞれ記述した。国際移民数の推移や日本の国別対外直接投資の額など、適宜グラフを用いることで、生徒が科学的な根拠に基づいて主体的・創造的に課題を解決する力を養えるよう工夫した。

第4章では、実際に海外進出した企業の取り組みについて記述するとともに、生徒に海外進出している企業について調べさせ、進出先のニーズに対応するための取り組みなどを分析し、考察する課題を掲載して、企業活動がグローバル化していることへの理解を深めるよう工夫した。また、それに伴う企業の社会的責任の重要性についても、SDGsとからめて記述した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1章 経済のグローバル化と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・タックスヘイブンについて記述(第一号)。 ・地域経済の統合について、現在の経済統合は自由貿易圏の拡大をめざしていることを記述(第五号)。 ・中国の対外開放を例にあげて、経済のグローバル化と経済成長は相乗関係にあることを記述(第二号)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3ページコラム ・4ページ18行目～19行目、側注② ・5ページコラム

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の現状について、経済のサービス化が進んでいることを記述（第一号）。 ・国際収支における資本移転等収支について考察する問題を掲載（第一号）。 ・章末課題として、1章で学んだ知識や、それをもとに考察する問題を掲載（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6ページ2行目～14行目 ・9ページ「考えてみよう！」 ・10ページ
<p>第2章 市場と経済</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者余剰について考えさせる問題を掲載（第一号）。 ・独占市場について、ダイヤモンドの市場の事例を掲載（第三号）。 ・寡占市場について、ビール市場の事例を掲載（第三号）。 ・公共財の例として、国連公海漁業協定について記述（第四号）。 ・実質GDPの求め方を考えさせる問題を掲載（第一号）。 ・経済成長における技術進歩について、T社とF社の取り組みを記述（第二号）。 ・各国の経済成長率をグラフ化して掲載し、その要因を比較して考えさせる課題を掲載（第五号）。 ・内閣府公表の「景気基準日付」を掲載し、今後の景気循環について考えさせる問題を掲載（第一号）。 ・日本の物価上昇率をグラフ化し、物価変動の要因について調べさせる問題を掲載（第二号）。 ・章末課題として、2章で学んだ知識や、それをもとに考察する問題を掲載（第一号）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・19ページ「考えてみよう！」 ・21ページコラム ・25ページコラム ・29ページコラム ・33ページ「考えてみよう！」 ・39ページコラム ・41ページ6行目～「考えてみよう！」 ・43ページ「考えてみよう！」 ・45ページ「考えてみよう！」 ・66ページ～68ページ
<p>第3章 グローバル化の動向・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本における人材のグローバル化について、社内のダイバーシティを推進している電子機器メーカーから、社内画像の提供と、内容適否の確認を受けて記述（第五号）。 ・経済連携協定を締結する要因について、日本の自動車メーカーがメキシコに進出した事例を取りあげて記述（第二号）。 ・5GによってIoT化がより促進することについて、中国の自動車メーカーが開発している電気自動車を例にあげて記述（第三号）。 ・ビッグデータとAIの活用事例について、オンラインショッピングなどで購入した情報をもとに、購入者へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・72ページ15行目～73ページ9行目、側注① ・85ページコラム ・98ページ17行目～99ページ9行目、側注画像 ・101ページ「ビッグデータとAIの活用事例」 図

	<p>レコメンドしたり，商品が店舗に補充されたりすることを図示（第一号）。</p> <p>・章末課題として，3章で学んだ知識や，それをもとに考察する問題を掲載（第一号）。</p>	<p>・104ページ～106ページ</p>
第4章 企業活動のグローバル化	<p>・相手国の消費者のニーズに積極的に応えながら海外進出している企業について，アクリル樹脂パネルメーカーと食品メーカーから，画像の提供と，内容適否の確認を受けて記述（第五号）。</p> <p>・企業の社会的責任において，SDGsへ取り組むことの必要性を記述（第四号）。</p> <p>・企業が世界の市場と関わりながら企業活動をおこなっていることについて，和洋菓子メーカーから主力商品の原材料を海外から積極的に仕入れていることを，画像の提供と，内容適否の確認を受けて記述（第三号）。</p> <p>・地域資源をビジネスに活用している例として，福岡市の取り組みを画像の提供と，内容適否の確認を受けて記述（第五号）。</p> <p>・章末課題として，4章で学んだ知識や，それをもとに考察する問題を掲載（第一号）。</p>	<p>・110ページ，側注画像2点</p> <p>・112ページ2行目～21行目，側注画像</p> <p>・113ページ2行目～9行目，側注画像</p> <p>・113ページ12行目～17行目，側注画像2点</p> <p>・116ページ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

口絵は生徒の興味を引き出すとともに，本文の補足的な内容になるよう配慮し，「実務に即して体系的・系統的に理解」できるようにした。

口絵①②では「各国のGNI」について世界地図を見開きで掲載し，一人あたり名目GNIの規模ごとに色分けすることで，各国の経済規模がビジュアルで伝わるようにした。また，EUやRCEPなど，生徒がおさえておくべき地域経済の統合について，加盟国が一目でわかるようにまとめた。

口絵③の「世界の消費税事情」では，各国の消費税（付加価値税）について税率の違いをグラフ化し，生徒が税のしくみに興味をもつよう工夫にした。また，「日本食・食文化の海外展開」を掲載し，日本の文化がグローバルに展開されていることがわかるようにした。

口絵⑤⑥は見開きで「アクリル樹脂パネルメーカーN社の海外進出」を掲載し，4章で取り扱った企業について，そのアクリル樹脂パネルが世界のさまざまな国や地域で使用されていることを図示し，海外に進出している日本の企業について生徒が興味をもつように工夫した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
103-32	高等学校	商業科	グローバル経済	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
190東法	商業735	グローバル経済		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 経済のグローバル化に関する基礎的な知識を習得させるために、見開きで教科書を構成し、ページごとに最低限おさえておくべき重要用語をピックアップして掲載した。また、生徒が理解しやすいよう記述は平易なものとし、EUやWTOなど、略語で目にするのが多い用語については適宜正式な英語表記を付記した。
- (2) 経済のグローバル化について実務に即して理解させるために、実際にダイバーシティを推進している企業や、進出先の国や地域のニーズに対応して海外市場へ進出している企業などの事例を、写真とともに取りあげた。
- (3) 経済のグローバル化に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて解決する力を養うために、客観的信頼性が高い情報をグラフ化して多数掲載した。
- (4) グローバル化する経済社会におけるビジネスに主体的かつ協働的に取り組む態度を養うため、適切な具体事例を選定して取りあげ、小問（「考えてみよう！」）と章末問題などで適宜グループワークに取り組みさせるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領 の内容	該当箇所	配当 時数
第1章 経済のグローバル化と日本			
第1節 グローバル化と国際化	(1) 経済のグローバル化 と日本	2 ページ	2
①グローバル化と国際化		2-3 ページ	
②市場主義		4 ページ	
③地域経済の統合	ア グローバル化と 国際化	4-5 ページ	
④EU の発展		5 ページ	
⑤グローバル化と経済成長			
第2節 日本経済の現状	(1) 経済のグローバル化 と日本	6 ページ	3
①経済のサービス化		6-7 ページ	
②投資による立国		7 ページ	
③製造業の海外移転		8 ページ	
④少子高齢化の影響	イ 日本経済の現状	8-9 ページ	
⑤事前規制から事後チェックへ		9 ページ	
⑥我が国の果たす役割		10 ページ	
第1章 章末問題			

第2章 市場と経済			
第1節 市場の役割と課題			
①インセンティブとルール		12-13 ページ	10
②市場のモデル化		14-15 ページ	
③市場メカニズム		15 ページ	
④完全競争		16 ページ	
⑤限界費用		16-17 ページ	
⑥最適生産量		17 ページ	
⑦消費者余剰と生産者余剰		18 ページ	
⑧価格規制	(2) 市場と経済	19 ページ	
⑨独占市場		20 ページ	
⑩独占市場の限界収入曲線	ア 市場の役割と課題	20-21 ページ	
⑪供給曲線と限界費用曲線		22 ページ	
⑫独占市場の余剰分析		22-23 ページ	
⑬寡占市場		24-25 ページ	
⑭金融市場		26 ページ	
⑮外部性		26-27 ページ	
⑯自然独占		28 ページ	
⑰公共財		28-29 ページ	
⑱情報の非対称性		29 ページ	
第2節 経済成長			
①国内総生産 (GDP)		30-31 ページ	8
②国内純生産 (NDP)・国民純生産 (NNP)・国民所得 (NI)		32 ページ	
③名目 GDP と実質 GDP		32-33 ページ	
④三面等価の原則		34 ページ	
⑤GDP の限界	(2) 市場と経済	35 ページ	
⑥フローとストック		35 ページ	
⑦経済が成長するために	イ 経済成長	36 ページ	
⑧経済成長の要因—人的資本		37 ページ	
⑨経済成長の要因—物的資本 (資本ストック)		38 ページ	
⑩経済成長の要因—技術進歩		39 ページ	
⑪経済指標		40 ページ	
⑫経済成長率		40-41 ページ	
⑬経済成長率の国際比較		41 ページ	
第3節 景気循環			
①景気循環		42 ページ	5
②景気指標		42-43 ページ	
③物価指数		44 ページ	
④物価上昇率		45 ページ	
⑤インフレーションとデフレーション	(2) 市場と経済	45 ページ	
⑥日本の現状		46 ページ	
⑦需要ショック	ウ 景気循環	46-47 ページ	
⑧貨幣数量説		47 ページ	
⑨供給ショック		48 ページ	
⑩スタグフレーション		48-49 ページ	
⑪物価変動の弊害		49 ページ	

第4節 経済政策			
①財政		50 ページ	13
②財政の機能		50-51 ページ	
③国の予算		52 ページ	
④財政赤字		52-53 ページ	
⑤財政赤字の弊害		53 ページ	
⑥増え続ける国と地方の長期債務残高		54 ページ	
⑦基礎的財政収支(プライマリー・バランス)の均衡		54-55 ページ	
⑧財政投融资		55 ページ	
⑨税のしくみ	(2) 市場と経済	56 ページ	
⑩税金の種類		56-57 ページ	
⑪国民負担率	エ 経済政策	57 ページ	
⑫貨幣の機能		58 ページ	
⑬管理通貨制度		59 ページ	
⑭準備預金制度		60 ページ	
⑮信用創造		60-61 ページ	
⑯日本銀行の役割		62 ページ	
⑰貨幣の範囲		62-63 ページ	
⑱信用乗数		63 ページ	
⑲金融政策		64 ページ	
⑳債券オペレーション		64-65 ページ	
㉑近年の金融政策		65 ページ	
第2章 章末問題		66-68 ページ	
第3章 グローバル化の動向・課題			
第1節 人材のグローバル化			
①人材のグローバル化	(3) グローバル化の動向・課題	70-71 ページ	3
②ダイバーシティ		71 ページ	
③日本における人材のグローバル化		72-73 ページ	
④海外に進出する日本人	ア 人材のグローバル化	73 ページ	
⑤人材のグローバル化の課題		74-75 ページ	
⑥価値観の尊重		75 ページ	
第2節 財とサービスのグローバル化			
①消費財と生産財		76 ページ	5
②消費財と生産財のグローバル化		76-77 ページ	
③サービスのグローバル化		77 ページ	
④水平分業と垂直分業	(3) グローバル化の動向・課題	78 ページ	
⑤貿易収支と経常収支		79 ページ	
⑥限られた経営資源		80-81 ページ	
⑦比較優位にある財		81 ページ	
⑧貿易の利益	イ 財とサービスのグローバル化	82 ページ	
⑨雇用のミスマッチ		83 ページ	
⑩関税による保護貿易		84 ページ	
⑪WTO(世界貿易機関)		84-85 ページ	
⑫自由貿易協定(FTA)と経済連携協定(EPA)		85 ページ	

第3節 金融と資本のグローバル化			
①変動為替相場	(3) グローバル化の動向・課題 ウ 金融と資本のグローバル化	86 ページ	7
②購買力平価節		86-87 ページ	
③物価上昇率の影響		87 ページ	
④国際金融のトリレンマ		88 ページ	
⑤金融のグローバル化の背景		89 ページ	
⑥対外直接投資の拡大		90 ページ	
⑦対外直接投資による格差対策		91 ページ	
⑧対外証券投資		92 ページ	
⑨経済危機		92-93 ページ	
⑩為替リスク		94 ページ	
⑪為替リスクへの対応		94-95 ページ	
第4節 情報のグローバル化			
①ネットワーク社会の到来	(3) グローバル化の動向・課題 エ 情報のグローバル化	96-97 ページ	6
②情報通信技術の進化		98-99 ページ	
③デジタル経済とは		100 ページ	
④国際的な分業		100-101 ページ	
⑤新たな価値の創出		101 ページ	
⑥デジタル・ディスラプション		102 ページ	
⑦デジタル・デバイド		102-103 ページ	
⑧個人情報とプライバシー		103 ページ	
第3章 章末問題		104-106 ページ	
第4章 企業活動のグローバル化			
第1節 企業の海外進出	(4) 企業活動のグローバル化 ア 企業の海外進出		4
①企業の海外進出		108-109 ページ	
②企業の海外進出の現状		109 ページ	
③海外進出の課題と企業の取り組み		110 ページ	
④企業活動による経済社会への影響		111 ページ	
第2節 グローバル化に伴う企業の社会的責任	(4) 企業活動のグローバル化 イ グローバル化に伴う企業の社会的責任		2
①SDGs		112 ページ	
②世界の市場との関わり		112-113 ページ	
第3節 世界との関わり	(4) 企業活動のグローバル化 ウ 世界との関わり		2
①グローバル・スタンダード		114 ページ	
②グローバル・スタンダードの役割		114-115 ページ	
③グローバル・スタンダードの課題		115 ページ	
第4章 章末問題		116 ページ	
		計	70